

■島秀雄 技術官僚。戦時下に名機D51を設計，“新幹線”を構想し，〈敗戦〉後，十河総裁のもとで実現させた。

しまひでお

田中正造直訴1901＝ 大阪で，代々紀州で薬種問屋をしていた家から出て〔関西鉄道会社〕の汽車課長をしていた父と，滋賀大津で代々儒学者をしていた家の娘との間の長男に生まれ，直後に父が官鉄に引き抜かれたため，東京に転居，

日露戦争終・1905＝ 4歳：

韓国併合・・・1910＝ 9歳：

明治天皇没・1912＝11歳：

新橋の小学校を経て府立四中に進学，

ベル仁条約・1919＝18歳：

受験に当って一念発起して猛勉強して，東京帝国大学工学部機械工学科に入学すると，

原敬首相暗殺1921＝20歳：

教鞭をとっていた父に恥をかかせまいと成績優秀で通し，

治安維持法・1925＝24歳： 東京帝大工学部機械工学科を首席で卒業し，鉄道省に入省。

金融恐慌・・・1927＝26歳： 随行者として初めてヨーロッパ各国を歴訪，鉄道その他の工場等を見学して多くのものを吸収して帰国，

共産党事件・1928＝27歳： この年，結婚。C53の製造に当って抜擢され，初めて蒸気機関車の設計に携わる。

以後，殆どの蒸気機関車の設計を手掛けながら，

海軍軍縮条約1930＝29歳： 自動車工業振興のための官民共同プロジェクトに出席した際に，運転免許を取得，

満州事変・・・1931＝30歳：

五一五事件・1932＝31歳： 工作局に戻り，

芥川直木賞始1935＝34歳： *貨物用主力機関車D51の主任設計者となり，

二二六事件・1936＝35歳： 早くも自動車を乗り回す。完成，日本を代表する名機となって行く。鉄道事情視察のため，渡欧。

日中戦争始・1937＝36歳： 後の新幹線のもととなる高速電車列車のインスピレーションを得て，帰国。

健保+総動員 1938＝37歳： 神戸の鷹取工場へ転勤となった。

大政翼賛会・1940＝39歳： 突然本社工作局転任となり，鉄道広軌化が信念の父のもとで，大陸での弾丸列車計画の推進に当たり，

日米開戦・・・1941＝40歳： 「新幹線建設基準」としてまとめたが，戦争に暗転により，鉄道関係者は壊滅的打撃を受ける。

・・・1942＝41歳： 三男を猩紅熱で失う。

創価学会検挙1943＝42歳： 超経済型の電車63型をデビューさせる。

年金+総武装 1944＝43歳： 専門書「最近の鉄道」を出版，

敗戦・・・1945＝44歳： 中野の避難先で若い課員らと電車列車の研究，〈敗戦〉後，動力車課長として戦後処理と復興に当る。

新憲法公布・1946＝45歳： *後の新幹線開発の母体となった〔高速台車振動研究会〕を開催。鉄道電化5ヶ年計画や，

新憲法施行・1947＝46歳： 青函海底トンネル計画などに参加，

極東裁判決・1948＝47歳： わが国最後の新設計蒸気機関車E10を担当。工作局長となり，電動列車構想を発表，

三大事件・・・1949＝48歳： この年，下山事件。早くも第一次の湘南電車を民間会社に発注。

朝鮮戦争始・1950＝49歳： 湘南電車が続々完成し，国鉄発足の年に開通し，技術職としては最高の国鉄理事・車両局長となるが，

独立回復・・・1951＝50歳： *桜木町事件の責任をとり辞職。

住友金属工業で車両関係の仕事を手伝ううち，

55年体制始・1955＝54歳： 十河新総裁に懇請され，国鉄理事・技師長として復職。

国連加盟・・・1956＝55歳： *「新幹線構想」を打ち出し，

以後，十河との二人三脚で推進，

安保闘争・・・1960＝59歳： 毎日工業技術賞。

TV宇宙中継始1963＝62歳： *開業が確実になった段階で，予算超過の責任をとる形で十河が追い落されたのに従って退陣した後，

東京オリンピック 1964＝63歳： 新幹線が開業。

大学紛争始・1965＝64歳： 彼の功績に対して朝日賞，

いざなぎ景気1966＝65歳： 心筋梗塞で倒れる。

美濃部都知事1967＝66歳： ヌスペリー賞，

全共闘レウク・1969＝68歳： ジェームズ・ワット国際ゴールドメダルなどが授与された。さらに，文化功労者。創設された宇宙開発事

業団の理事長に就任。静止衛星「さく2号」の打上げに成功した。

大阪万博・・・1970＝69歳： “QN変更”と言われる大英断を下す。

ドルショック・・・1971＝70歳： 勲一等瑞宝章。

石油ショック1973＝72歳：

JALハイジャック・1977＝76歳： 宇宙開発事業団理事長を退職し顧問。初の静止気象衛星“ひまわり”を米国ケーブルカナベラルから打上げ。

中曽根内閣・1982＝81歳：

自社さ連立・1994＝93歳： 文化勲章。

・・・1998＝97歳： 没した。

高橋団吉「新幹線をつくった男・島秀雄物語」，「目でみる日本人物百科」，